

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	株式会社 アガペ		
事業所名	グループホーム アソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目2-4		
自己評価作成日	令和4年2月11日	評価結果確定日	令和4年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>アソシエグループ内で働きやすい職場作りをすることは依然として続けている。なかなか、うまくいっていない面もあるが努力していきたい。飯倉の中でいうと利用者さまのを知ること、生活歴や趣味嗜好などを考慮して個別支援計画に反映できるようにした。業務の見直しや利用者の担当制をしっかりできるようにどのように進めていかに改めて始めて、次年度に繋がるようにしたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「アソシエ飯倉」は小規模多機能ホームと併設型の2ユニットからなる。バス路線から少し入った静かな住宅街にあり、近隣には小学校、中学校、スーパーマーケット等がある。今後、中学校などの職場体験を予定している。近隣にある桜見物をしたり、事業所周りを散歩している。行事の時には、利用者と話し合いみんなの食べたい物を職員が作る。2月には「恵方巻」を作ったり、餃子を焼いた。よりよく利用者を知り、生活歴や趣味嗜好などを考慮して個別支援計画を作成した。片方の手を動かすににくい方には、箸でビー玉をつかむなどの運動をプランに入れた。コロナ禍のなか行事計画、外部との交流も思うようにできていないが、近隣の事業所と話し合いをしたり、自治会との交流も行っている。今後も近隣住民との関係を深め、活躍が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本部研修、ミーティング時にリネンの共有などを図っている。	法人の社是とは別に、事業所設立時に作った事業所の理念がある。朝の申し送り時に、理念の唱和を行い、その理念を共有し実践につなげている。三か月に1回本部研修時に、法人の社是、事業所の理念などの共有をしている。	理念について職員間で話し合いの機会を持ち、振り返りなどもされてみたらどうだろうか
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	出来ていない。コロナが収束してからの課題である。	近隣に住む職員が自治会長をしており、併設の小規模多機能ホームの会議室を自治会の集まりに提供したり、近隣の方を見学に招いた。小学校の夏祭りなどに利用者と一緒に参加したり、毎年開催する「アソシエ祭り」には、地域の方を招いていた。落ち着いたら中学校の職場体験を行う予定である。コロナ禍の中、活動は困難になっているが、近隣のグループホームと情報交流を行ったり、町内会にも加入しており、今後も地域との繋がりを大切にしていきたい。	公民館との交流を持ち、地域の情報をもったり、事業所の取り組みなどを紹介してもらったらどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験が出来ていないので、落ちついたら行きたい。職場内に自治会長がおり、近所の方を見学に招いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2020年1月より行えていない。収束した時に開催することも検討したが、ワクチンを打っていない利用者もいたため再開しなかった。報告書は請求書とともに送付している。	現在運営推進会議の開催は行っていない。出席者は家族2~3名、包括支援センター、自治会長などである。事業所の取り組み、状況報告などは、毎月送る請求書と一緒に、担当の職員が一筆添えて家族に送付している。	議事録として、事業所の取り組み、状況報告などがきちんと作成されているので、運営推進会議に出席されていた方たちや行政へも報告書を送付されてみてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導が入る予定で、連絡調整を行った。他には、生活保護の方のCWとやりとりもあり。	介護保険の申請は郵送している。資産調整表の件などについて相談したり、コロナ禍の中で物品の購入などについても、請求すると還付金があることなどの情報も得ている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1回行い、しないようにしている。	身体拘束廃止委員会を三か月に1回開催し、話し合いを行っている。年度初めに、身体拘束についてのチェック表を全員で再確認し理解を深めている。「身体拘束はなぜ問題なのか」「フィジカル・ドラッグ・スピーチ・ネグレクト」などの研修を行い、言葉かけなどについてはその都度施設長などが注意し、全員で話し合いを行っている。玄関施錠も行っておらず、見守りとセンサーで事故のないように対応している。	

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修を行い高齢者虐待を学ぶ機会を持った。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、学ぶ機会をもった。	成年後見制度についての研修は施設長が行っている。パンフレットも用意してある。必要があるときには本部に相談したり、公益社団法人成年後見センター「リーガルサポート」に相談したりと、利用につなげることはできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重説などすべて口頭で説明を行い、不明な点があれば説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見は、ミーティング時に議題としてあげ、運営に反映させるように努めている。	家族には事業所の取り組み及び状況報告を送付している。電話で体調、日頃の様子を知らせている。朝食にパンを希望されている方がおり、家族に好みの冷凍のパンを送ってもらうようにした。家族の意見などは、ミーティング時に話し合いそれらを運営に反映させている。昨年コロナが少し落ち着いてきた時には玄関で10分程度、家族の訪問ができた。最近では、コロナの状況から家族の訪問はできていない。	コロナの状況が落ち着いてきたら、工夫を凝らし家族の訪問が短時間でもできるようにしてみたらどうだろうか。1階に意見箱を、設置しているが、何も入っていないとの事。請求書とともに送付している事業所の取り組み、状況報告などと一緒に一筆便のような用紙を同封し、意見箱に入れやすくしてみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見などを募り、みんなで決める機会を持っている。	毎月のミーティング時に積極的に意見を出しあっている。年2回は施設長との個人面談があり、意見、提案などを聞いてくれる。日頃の仕事の中でも意見を出しやすい。ヘルスマーターの購入の希望を出し、すぐに対応してくれた。本部には個人目標を提出し、自己評価を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課など職員の個別評価を行っている。シフトも出来る限り希望休を取れるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集で、性別や年齢による排除はない。休みを取り、出勤時にはしっかりと働いて頂くよう配慮している。	年齢は30歳代から60歳代と幅が広く、男性、女性のバランスも取れている。休憩時間、休憩場所もある。研修は仕事の中で受けることができ、シフトの調整も行ってもらえ、自己研鑽に励む機会が持てる。職員はそれぞれ得意な分野を発揮し、ムードメーカーで楽しい雰囲気を作ったり、編み物が好きでポシェットなどを手作りし、利用者にプレゼントした。今後、手話を勉強したい、自分自身の健康に留意し、心豊かに仕事に取り組みたいとの思いがある。	

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修を行い、学ぶ機会を持った。リモートで参加できるように外部の研修も検討していきたい。	施設長が資料を作成し「虐待・感染症・認知症について」などの内部研修を行っている。次年度はオンライン研修に参加できるようにしていく。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年も必要な内部研修を行った。タブレットが手に入ったので、次年度はオンライン研修が参加できるようにしていく。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西、早良区のグループホームの連絡会に入っており、コロナ前は研修に参加。現在は、SNSを利用し相談や入居者情報のやり取りなどを行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し合いを持ち関係を築くほかに、家族からの情報をもとに本人との関係作りに役立っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階から相談事や疑問に思っていることなど話し合えるようにしている。入所後も、面会時などに話し合うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前情報や家族記載のアセスメントシートなどをもとに必要な支援を検討しプラン作成の参考にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は、自分でしてもらうなど介護されるなど一方的な立場に置かないようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や戸外の散歩など家族にも協力をお願いしている。		

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会は控えているがハガキ、電話のやり取りがある利用者もいる。	近隣の桜見物、事業所周りの散策などを徒歩又は車いすで行っている。暖かい時は中庭のテラスで日光浴を行う。年賀状を書いたり、電話のやり取りを行っている。以前からの趣味を生かし、編み物をしたり、毎日ラジオ体操を行うなどこれまで大切にしてきたことが途切れないようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性も含め、座席配置など配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった方のお見舞いや退所後どうなったかあるいは家族からの連絡もあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人、家族の希望など聞いている。入所してからは、普段の会話からの要望や意思表示が困難な場合は家族からの聞き取りなどで把握するように努めている。	入所時には事業所に見えたり、施設長などが病院、施設に行ったりする。基本情報はアセスメントシートに本人及び家族に書き込んでもらう。利用者、家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、不安なこと、要望などを聞き取る。意思を伝えることが難しい利用者には、表情、しぐさなどから思いをくみ取るようにしている。把握した内容、情報は全職員で共有し、ミーティング時にカンファレンスを行う。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを書いてもらい、把握したり昔話から拾い上げるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態に合わせて生活できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合いを行い、必要時には家族からの意見などを取り入れプランの作成や今後のことについて話し合う機会を設けている。	ミーティング時に申し送りなどで情報を共有している。職員は利用者二人を担当している。プランに基づき、実施記録は行われており、積極的・消極的・拒否・体調不良等細かく記録されている。本人がより良く暮らすための課題、ケアのあり方についてカンファレンスで話し合う。担当者会議では本人、家族の要望を聞き、医師、看護師などから意見をもらい、ケアマネジャーを中心に現状に即した介護計画を作成している。	

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング、申し送りなどで情報を共有するようにして、プランの見直しなど検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パンを食べたい利用者があり、家族にお願いして朝食で提供できるようにした。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、周辺を散歩するくらいなので今後できることを検討していく。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に往診、受診を選んで頂くようにしている。受診から往診の変更も出来る事も伝えている。	協力を結んでいる医院が2件、往診専門医が2件ある。往診専門医は24時間対応が可能である。かかりつけ医には家族に対応してもらっており、申し送り時、ミーティング時に情報を共有している。医療連携体制加算をとっており、オンコールで看護師と連絡を取れる状態にあり、状態報告や適切な医療に繋がれるように努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算をとっており、オンコールで看護師と連絡を取れる状態にあり利用者の状態報告や適切な医療に繋がれるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、MSWと情報のやり取りや退院時期について話し合うようにしている。復帰が難しい場合は、今後のことを家族を交えて話し合うようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで重度化してできる事、できない事の説明を行い理解して頂くようにしている。終末期に関しては、入所時やその都度どうしたいか？など話し合うようにしている。	入居の際に重度化の指針について話を行っている。今までに2名様の看取りを行った。職員も研修を行っている。重度化したときに事業所のできる事、できない事の説明を行い、理解してもらうようにしている。今後は、往診の医師とも話し合いを行い方針を共有し支援に取り組んでいく。	

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、本部研修で救命講習を受けるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を日中、夜間で行っている。消火器の使い方、機器の扱い方などの説明を受けている。	年2回、火災、避難訓練を日中、夜間想定で行った。消防署員に立ち会ってもらった事もある。水消火器、AEDの使用法などを習った。毎年、本部研修で救命講習を受けている。近隣の方には、消防訓練の際にベルを鳴らすことへの了解もらった。避難場所は小学校、スーパーマーケット、スポーツクラブなどがある。備蓄はなく、今後考えていく。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴、更衣するときなど他利用者から見えないように配慮などしている。	本部で外部講師を呼んで研修を行った。接遇・マナー・プライバシーの研修などの内部研修を行っている。言葉かけなどに気が付いた時には施設長が注意を行い、ミーティング時に話し合う。トイレ、入浴、更衣時などにも配慮している。ホームページに写真を使用する時等の同意書はもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から拾い上げられるように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合で、業務を進めすぎないように留意している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が選べる人は選んでもらったり、洗顔しにくい人はホットタオルで拭くなどしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを手伝ってもらっている。回数は多くないが利用者様が食べたいものを、取り入れるようにするなどしている。	コロナ禍の中、外食レクはできていないが、行事の時に恵方巻を作った。利用者の希望で朝食をパン食にしたり、餃子を焼いたり、食事を楽しんでいる。利用者は食器拭きの手伝いを等を行っている。誕生日の時はショートケーキを飾りつけ、みんなでお祝いをする。写真を撮りお便りのなかに同封し、家族に事業所の様子を知らせている。	

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を注意したり、利用者の嚥下状態にあわせた食事形態にするようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	独りで出来ない方は介助を行っている。必要時は、訪問歯科を利用することもある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握できるように努め、それに応じてトイレ誘導している。	全員の排泄チェック表があり、申し送りノートに気が付いた事を書き込む。職員間で情報を共有し改善提案を行う。声かけを行うことで大パッドから中パッドに変更できたり、失禁が減った。ブリストル排便スケールによる便の性状分類指標で、水分補給を行ったり、緩下剤を使用する時もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続くとき、起床直後に排便を促すために牛乳を提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングに合わせた入浴は出来ないが、本人の好きな温度にしたり入浴時間をやや長くしたりしている。	週2回、月曜日から土曜日の間に一日3~4人、入浴する。1階が機械浴、2階が三方介助のできる普通浴である。職員二人介助で入浴される利用者が二人いる。皮膚の状態は看護師に報告し、健康管理に役立てている。入浴は大事なコミュニケーションの場であり、本人の好きな温度にしたり、入浴時間を長くしたりと、入浴を楽しめるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠が強い時は短時間で昼寝をさせたり、日中の活動を促し夜間の睡眠に繋げるなどしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各々で薬の理解するようしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が得意だった利用者に編み棒を用意して編んでいただいたり、利用者からの話でご飯と佃煮を食べたいと申し出があり家族に用意をいただいた。		

R4.2自己・外部評価表(事業所名アソシエ飯倉)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしたい利用者がおり家族にお願いをしている。コロナ禍ということもあるが、以前から外出はなかなかできていない。	以前は2～3か月に1回外出レクを行っており、回転ずし、活魚茶屋、定食屋などに行った。近隣にスーパーマーケット、ドラッグストア等もあり、買い物に行っていた。コロナ禍の中、事業所近辺を散歩したり桜を見に行く事がある。暖かい日には中庭で日光浴をしたり、木々に触れ季節の移ろいを感じてもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預り金として預かり、必要なものがあれば近くのお店で購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や家族に連絡をしたい場合、あるいは家族からの連絡に対して本人様に取り継いだりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを作るなどして季節を感じ取られるようにしている。	事業所は四方向から陽の光が入り明るい、リビングは特に両側が大きく開いており、明るい日差しにあふれている。ゆったりとテーブルが配置され、午後の時間はソファでくつろげる。キッチンから全体が見渡せ、カウンターテーブルがあり、食事をしたり、食器拭きなどの手伝いを行っている。小規模多機能ホームとの間に中庭があり、外の風情に触れながら、お茶を楽しむことができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のよい人同士、茶話会ができるようにしたり、お部屋で過ごしたい方は過ごせるような環境を作るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、お部屋で過ごせるような環境作りをしている。	各部屋は広く、明るい日差しにあふれている。ベッド、タンスなど備え付けられているが、使い慣れたおしゃれなタンスを持参している。各部屋には天袋の収納場所があり、室内の整頓ができています。家族の写真に囲まれ、自分の好きな飾りつけをして、くつろげ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に配慮している。		